

【最終】令和6年度 自己評価表 (R7.1)

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)	改善策
					令和5年度	令和6年度		
学び続ける力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを推進し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、児童自らが粘り強く学習に取り組もうとする力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びの一体的に推進し、授業改善を進める。(「主体的な学び」が定着している児童の割合) 基礎・基本の定着を図る。(江田島市学力調査の各教科の合計点が、目標値を上回った学年の数) 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を推進し、資質・能力の育成を目指した授業改善を継続的に行い、学びの自立化を進める。 4つの資質・能力を教職員と児童が共有し、取組をフィードバックさせる中で、主体的な学びをより一層定着させる。 プリント学習に加え、タブレット端末等も効果的に活用し、つまずきのある児童への具体的な手立てを工夫する。 家庭学習において自主学習の方法を工夫し、児童自らが、課題と思う単元の学習を選択的に行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的な学び」が定着している児童の割合 児童同士の学び合いがある授業づくり(教師アンケート) 江田島市学力調査の各教科の合計点が、目標値を上回った学年の数 	76%	80%	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的な学び」が定着している児童の割合 【83%】 児童同士の学び合いがある授業づくり 【83%】 江田島市学力調査：2学期実施済(結果は2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教科や、特別活動で資質・能力を高める取組を仕組むことにより、児童の成長を促すという意識を教職員がもち続ける。 「主体的な学び」について否定的に回答する児童が固定化しているため、支援が必要な児童に対して、どのような授業を展開していくのか研修を進めていく。 PDCAサイクルを意図的に仕組みながら、学び合いのある単元構想(授業構想)をする。 基礎的・基本的な学力の定着を土台として、児童の学習意欲の向上を図る。 ICTを効果的に活用すると共に、日々の学校生活の中で、児童にタブレットの適切な使用方法を身に付けさせる。
思いやりのある心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 互いの個性や多様性を認め合い、安全・安心な学級づくりを実現し、児童自らが主体的に活動しようとする力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで行動することを通して、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。(自己実現力・自己有用感がある児童の割合) 自分の夢や目標をもち、実現に向かって努力する児童を育てる。(目標に向かって努力する児童の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 校外外でボランティア活動を継続実施する中で、児童の行動を適切に評価し、価値付けをしていく。 道徳教育や人権教育の充実を図りながら、他者を思いやる心を育むとともに、児童の言動に対して的確な指導や評価を行う。 体験活動を計画的に仕組み、キャリアノート等も効果的に活用しながら、自己の目標や課題を視覚的に確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己実現力・自己有用感がある児童の割合 校内ボランティア活動への参加率 目標に向かって努力する児童(児童アンケート) 	83%	85%	<ul style="list-style-type: none"> 自己実現力・自己有用感がある児童の割合 【84%】 校内ボランティア活動への参加率 【65%】 目標に向かって努力する児童(児童アンケート) 【85%】 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動や委員会活動での自治的な活動を継続的に仕組み、「学校やクラスのために働くことができた。」という意識をこれからも高められるようにする。 ボランティア活動、授業、係や委員会など、児童が頑張っている姿をその都度肯定的に評価し、価値づけられるようにする。 自分が立てためあてや、「レベルアップ自分」の4つの視点を用いて、1年間の自分の成長を振り返ることができるようにする。
健やかな心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさを味わえる取組を推進し、体を動かす機会を習慣化させ、児童自らが体力向上を図ろうとする力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣の確立に向け、粘り強く取り組む児童を育てる。(「運動やスポーツが好き」と答える児童の割合) 自ら進んで、運動に親しむ児童を育てる。(進んで運動に親しむ児童の割合) 食と健康の大切さに気付き、より良い生活習慣の定着に向け自己管理できる児童を育てる。(朝食を毎日食べた児童の割合)(起床・就寝時刻の固定ができた児童の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びを奨励し、友達と関わりながら体を動かすことの楽しさを味わうことができるよう、各学級で遊び方等を工夫する。 体育委員会を中心に、異学年集団で遊べる外遊びを計画し、運動の楽しさを味わわせる。 体育の授業内で、サーキットトレーニングや単元に沿った準備運動を取り入れ、「瞬発力」「持久力」「跳躍力」に焦点化した種目に取り組ませる。 基本的な生活習慣の定着を図るため、生活リズムチェック等を活用した保健指導を実施させ、取組の充実を図る。 食に関する知識の習得及び実践できる能力の育成を目指し、学校医や栄養士と連携した給食試食会の取組を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「運動やスポーツが好き」と答える児童の割合 1日1回以上外遊びをする児童の割合 起床、就寝時刻の固定が(7割以上)できた児童 朝食を毎日(7割以上)食べた児童 	小5男女 86%	小5男女 90%	<ul style="list-style-type: none"> 「運動やスポーツが好き」と答える児童の割合 【81%】 1日1回以上外遊びをする児童の割合 【62%】 起床、就寝時刻の固定が(7割以上)できた児童 起床【88.2%】 就寝【82.6%】 朝食を毎日(7割以上)食べた児童 【96.8%】 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休憩の体育委員会による、体を動かす遊びの奨励を継続して行い、体育科の授業での運動量を確保しながら、体を動かす楽しさをしっかりと味わわせる。 業間運動に、教員も児童と一緒にグラウンドに出て声掛けをし、業間運動の後も教員も一緒に遊んで、外遊びの楽しさを味わわせる。 保護者は、睡眠の重要性を認識しているが、生活と結びついていない。そこで、継続して、保健指導などで睡眠の重要性を呼びかけ、保護者への啓発を行う。 中間自己評価に比べ改善が見られた。これまでの取組や家庭への呼びかけを、継続して行う。
信頼に応える学校	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民等の協力を得ながら学校運営を行い、家庭やPTAと連携・協働した取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童、教職員の姿を通して、地域・保護者から信頼される教育活動を推進する。(保護者の肯定的評価の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートやいじめアンケート等を計画的に実施し、児童や保護者の思いを受け止めながら、教育活動を推進する。 保護者との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、ホームページや学校だより等で日常的な児童の成長を伝え、発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的評価(保護者アンケート) 	87%	90%	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケート(肯定的評価)「学校に行くことを楽しみにしている」【79.9%】 「ホームページ等で学校の様子がわかる」【91.5%】 「願いを受け止め、取組を進めている」【80.4%】 「悩みごと・困ったことを相談できる」【85.2%】 ・学校評価アンケート全体での肯定的評価の割合は82.4%で、目標値に至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間で、日常的に生徒指導上の事案や児童の様子について情報交換し、学校全体で児童と保護者への対応ができるようにはたらかかけを継続する。 個別対応も保護者対応も、多様化しており、保護者の十分な理解を得るまでに至りにくい現状もある。逆に、「学校が楽しい」「学習が楽しい」といった児童の声を記述して下さっている保護者の存在もある。学校生活で起こり得るあらゆる事態を想定し、今後も保護者の声を真摯に受け止め、安全で安心な、楽しい学校づくりに努める。

<p style="text-align: center;">働き方改革の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革を推進し、教職員が健康でやりがいを持って働くことができる環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間を削減し、教職員がやりがいをもって働ける組織づくりを進める。(教職員アンケートの肯定的評価の割合)(超過勤務時間の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート等も実施し、業務改善に向けた取組を継続的に行う。 日課等を工夫し、子供と向き合う時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供と向き合える時間の確保(教職員アンケート) 超過勤務時間が45時間以内の教職員の割合 	<p>76%</p> <p>61% (2月末)</p>	<p>80%</p> <p>60%</p>	<p>○教職員アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子供と向き合う時間の確保に努めている」【64%】 目標値は達成できなかった。 「業務の効率化に取り組んでいる」【77%】 <ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間数45時間以内の教職員 4月【33.3%】 5月【40.0%】 6月【40.0%】 7月【86.6%】 8月【100%】 9月【60.0%】 10月【60.0%】 11月【46.0%】 12月【86.0%】 〔4～7月〕【50%】 〔8～12月〕【70.4%】 目標値は達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 数値的には目標達成できていないが、超過勤務時間数を意識しつつ、児童と向き合う時間を作り出す努力はしている。休憩時間には、教職員も体育委員会の企画した外遊びに参加したり、教室で児童の話を開いたりしている。児童理解のために、今後も児童と向き合う時間を大切にしていく。 超過勤務時間数についての教職員の意識は高まっている。現在、今年度の業務について振り返り、改善点を検討しているところである。「知・徳・体」の取組を充実させるとともに、効率よく業務に取り組むことができるよう、前向きに検討し、次年度も業務改善を意識しながら実践していく。
---	---	--	---	---	---------------------------------	-----------------------	---	---